

## 第22回 奈良女子大学 文学部 欧米言語文化学講演会 (仏文4)

Rousseau et l'invention de la famille moderne. Philosophie et littérature

ルソーと近代家族の創出：哲学と文学のはざままで

ガブリエル・ラディカ 氏 (リール大学教授)

Gabrielle RADICA (Université de Lille)

[通訳・翻訳：玉田 敦子氏(中部大学教授)]



フランスにおいて18世紀末は、近代家族の形成にとって決定的な転換点でした。ルソーは『エミール』や『新エロイズ』において、家族における夫婦という核、そして夫婦を結びつけ子どもへと広がる情愛の絆の重要性を鮮やかに捉えました。その結果、家族をめぐる表象と実践のあり方は持続的に変容することになったのです。

**2025年10月27日(月)**

13時00分—14時30分

奈良女子大学 総合研究棟(文学系S棟)

**S 231(LL1)講義室**

(フランス語講演 逐語通訳付き)

講演終了後、14時50分から Radica 先生を囲んでのディスカッション・交流会を行います。ふるってご参加ください！  
奈良女子大学の学生・院生・教職員は申込不要です。学外の方で参加を希望される場合は、下記の申し込みフォームをご利用ください。

<https://forms.gle/ngP2pg7NnhnDarkTA>

申込締切は 10月23日(木)です



主催：奈良女子大学文学部 欧米言語文化学会

共催：科学研究費基盤研究(B)「文学による国家創造のプロジェクト：フランス近代における文学教育と国民形成」(研究代表者 玉田敦子：中部大学)

共催：奈良女子大学文学部 言語文化学科「ジェンダー言語文化学プロジェクト」

問い合わせ：高岡 尚子 naotakaoka@cc.nara-wu.ac.jp